

コロナ

「新型コロナ  
ウイルスを封  
じ込めるため  
に大規模検査

を本気でやるこ  
とが大事だ」  
山下議員は、  
①高齢者施設な  
どでの社会的検

査、②無症状者  
へのモニタリン  
グ検査、③変異  
株検査——の拡充を提案。菅首相(当時)  
は「方向性はほぼ一  
緒だ」と答弁しまし  
た。(3月19日予算委)



予算委員会で提案(3月19日)

憲法

世論調査で、政権に期待するテーマとして、「改憲」と答える人は数%にすぎません。山下議員は、憲法審査会で「不要不急の改憲論でなく、コロナから目の前の命を守るために必要な対策を打つことこそ国会の使命だ」と意見表明しました。(5月19日)

原発

東京電力柏崎刈羽原発での不正侵入防止の不備について「収益力を上げるために再稼働を急ぐ姿勢が今回の重大事態を生んだのではないか」と指摘。菅首相(当時)は「東電の組織の体質や原発を扱う資格にまで疑念をもたれてもやむを得ない」と答弁(3月19日予算委)。また、福島での汚染水放出は、原発事故に長年苦しめられてきた漁業者との約束をほごにするものであり撤回すべきだと迫りました。(4月15日環境委)。

山下よしき 2021年(204国会) 質問一覧

3月16日 環境委	「ゼロエミ火力」は石炭火力延命で、2030年CO2大幅削減に逆行すると批判
3月19日 予算委	新型コロナで大規模検査要求。シフト労働者の実態示し、理不尽正す新しいルールを作れと迫る
4月6日 環境委	神鋼石炭火発アセスでの環境大臣意見が、住民の健康より事業を優先し後退させられた問題を告発
4月8日 環境委	瀬戸内海の人工干潟の問題点を指摘。藻場干潟の保全求め、赤潮の被害を二度ともたらすなど指摘
4月15日 環境委	福島汚染水放出は約束ほどだと撤回迫る。神鋼石炭火発アセスの事業者との事前調整を追及
4月22日 環境委	神戸六甲山開発計画の実態示し、自然公園法の規制緩和で、自然・生態系の破壊招きかねないと指摘
4月23日 議運委	西村担当相(当時)のコロナ流行は何度も起こるとの発言に、感染封じ込めこそ政治の責任と迫る
5月7日 本会議	医療崩壊の大坂に国の医師派遣はゼロだと追及。石炭火力増設やめ、先進国との責任果たせと迫る
5月17日 決算委	かんぽ不正販売で、現場を不正に駆り立てた組織ぐるみの実態を告発し監督責任を迫る
5月18日 環境委	温暖化対策法質疑で、参考人全員が原発と石炭火発に反対し、ゼロエミ火力やCO2貯留を批判
5月19日 憲法審査	国民は改憲論など求めていない。コロナ危機に乗じた「安倍改憲」推進は許されないと主張
5月20日 環境委	電力業界任せで、石炭火力建設が続く実態を告発。CO2削減のため全廃への政治決断を求める
5月25日 環境委	G7で石炭火力全廃に背を向ける政府を批判。『高効率』とごまかしての国外支援は停止せよと迫る
5月27日 環境委	奈良県平群町メガソーラーなどの再エネ開発の指導要求。住民合意のルールが必要と迫る
6月1日 環境委	マイクロプラスチックの魚や人間への深刻な影響を指摘。「地球に残すな」と抜本対策を迫る
6月3日 環境委	プラ製品による海洋汚染を止めるため、ペットボトルなどの膨大な生産量自体を減らす対策を迫る
6月8日 環境委	大阪府摂津市のダイキンによる「PFOA」汚染の調査と対策を要求。消極的な環境相を批判

## 2022年新春 国会報告 NO. 13



近畿、全国のみなさん、いつも応援ありがとうございます。  
日本共産党にとって政権への初挑戦となつた総選挙の教訓を生かし、7月の参議院選挙で躍進するため奮闘いたします。引き続いてのご支援を心よりお願い申し上げます。  
新しい国会報告をお届けします。ご覧いただけたら幸いです。



(写真上) 参院予算委員会で、シフト制労働者の権利を守るルールをと迫る(2021年3月19日)

(写真右) 深刻化するコロナ感染で、大阪への医療者派遣などを、厚労省の担当者に緊急要請(2021年4月16日)

日本共産党 副委員長・参議院議員

# 山下よしき

【国会事務所】〒100-8962

東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1123号  
TEL:03-6550-1123 FAX:03-6551-1123

【近畿ブロック事務所】〒537-0025

大阪市東成区中道1-10-10 ホクシンピース森ノ宮102号  
TEL:06-6975-9111 FAX:06-6975-9115

日本共産党 参議院議員 山下よしき

ホームページ:

<https://www.yamashita-yoshiki.jp/>



@jcpymashita

山下よしき 2021年(204国会) 質問一覧

元郵政職員の手紙を受け、「過酷なノルマ」「どう喝的研修」など行き過ぎた成績主義が職場を支配する中で、

かんぽ生命の不正販売が広がった実態を告発。「組織ぐるみの不正が行われたことへの反省を踏まえた出直しが必要だ」とただしました。(5月17日決算委)

憲法審査会で意見表明(5月19日)



あかみね必勝決起集会(10月30日沖縄)

沖縄に学ぶ 山下よしき

「インターネットで『立憲共産党』なんて揶揄したタグが多い。歴史の長い政党に対して失礼だ。『共産立憲党』でいいぐらいだと私は思う。それぐらい、立憲民主党もがんばって、沖縄の声を届けるようがんばります」。総選挙最終日、日本共産党・赤嶺候補の必勝決起集会で、立憲民主党県連代表代行がこんなスピーチをしてくれました。感動しました。沖縄では「オール沖縄」の各政党が、肩を並べて訴え、お互いをリスペクトしあい、共闘への攻撃をそれぞれの言葉で反撃していました。沖縄のような共闘が全国に広がれば、政権交代をゲンと引き寄せることができるのでないでしょうか。

